

和歌山が生んだ知の巨人 「南方熊楠」が暮らした地を巡るツアーで 観光客を誘致する実験

和歌山大学経済学部 江口創紀 × 南海電鉄グループ和歌山事務所

企画実施の目的

南海和歌山市駅発の着地型観光開発をし、できれば和歌山圏外から観光客を呼び込む。

手法

そのままでは誰も来ないような土地でも、そこに「知」という価値を付けることで、参加者を募った。

残された課題

Instagramを活用した広報をしたが、相変わらずお年寄りしか来ない。ツアーを何で知ったのかアンケートを取ると、ニュース和歌山という方や、そもそも南海さんのツアーの常連客だという方が多かった。田辺市は和歌山市から普通電車で2時間かかり遠いのも、参加者が集まりにくい原因。



和歌山市編、和歌山市駅出発時



田辺市編、南方熊楠顕彰館にて

南方熊楠について

1867年5月18日、和歌山市の橋丁に生まれる。寄合町で育つ。雄(おの)小学校、和歌山中学校(現在の桐蔭高校)を卒業し、東京大学予備門に入学したものの中退する。

幼いころから「勉強好きだが学校嫌い」だった南方熊楠は、蔵書家に通っては記憶して家に帰ってから抄写した。和歌山市生まれで「都会っ子」だったのである。

アメリカ、イギリスに留学し、大英博物館に通う。天文学に関する論文が「ネイチャー」に掲載される。掲載された本数51本は、単著としては歴代最多。

1900年、イギリスから帰国し、和歌山市に住むが、勝浦、那智と紀伊山地を転々とし、田辺市に落ち着く。鬮鷄神社宮司の四女・松枝と結婚。

1916年、中屋敷町に400坪の家を求め、終生住む。自宅の柿の木で変形菌新属を発見した。後に「ミナカテラ」と命名される。

1929年、紀南を行幸された昭和天皇に御進講、動植物の標本をキャラメル箱に入れて献上した。

1941年12月29日、74歳で永眠。田辺市の高山寺に葬られる。

ツアーを実施して

12月5日(日)子どもの頃の暮らしをたどる(和歌山市)は、これといった建物が残っている訳でもなく、生誕の地、雄小学校跡、通っていた寺子屋跡、恩師鳥山啓(とりやま・ひらく)の宿舍跡など、跡地ばかりを巡った。松下先生の素晴らしい資料とトーク力により、盛況だった。

12月18日(土)田辺での暮らしをたどる(田辺市他)は、午前中に熊楠の妻の実家である鬮鷄神社、熊楠がよく寄っていた多屋孫書店(現存)、よく食べていたおけし餅を売っている辻の餅(現存)、熊楠が眼鏡を買った「メガネの玉置」(現存)などを回り、和歌山市と比べて現存しているものが多かった。また、熊楠の大親友であった喜多幅武三郎の産院跡にも立ち寄った。また、午後からはバスに乗り、熊楠の墓がある高山寺、白浜町の南方熊楠記念館を回った。自然が残る神島(かしま)を見ることもできた。

ツアー実施に係り、南海電鉄グループ和歌山事務所様をはじめ、和歌山大学国際連携部門・特任助教の松下恵子先生、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus中平 匡俊様、南方熊楠顕彰館様、和歌山市立博物館様などにご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

和歌山が誇る「知の巨人」
南方熊楠の暮らしをたどる

案内人/松下恵子氏 (和歌山大学国際連携部門・特任助教)

1 子どもの頃の暮らしをたどる(和歌山市)
参加費 当日・送料・保険代として2,000円/人
集合 9:00 和歌山駅前山形町駅前・解散 12:00 駅前
※当日は「和歌山駅前山形町駅前」にて集合・解散となります。和歌山駅前山形町駅前集合・解散は、和歌山駅前山形町駅前集合・解散となります。

2 12/18(土) 田辺での暮らしをたどる(田辺市他)
参加費 当日・送料・保険代として2,000円/人・バス代1,500円/人
集合 10:00 JR和歌山駅前駅・解散 12:00 南方熊楠顕彰館
※当日は「和歌山駅前山形町駅前」にて集合・解散となります。和歌山駅前山形町駅前集合・解散は、和歌山駅前山形町駅前集合・解散となります。

■小冊子 各日とも2名、申請後申し込みが必要です。
■入場料その他の交通費はお客さまご負担となります。

南海電鉄グループ 和歌山事務所
TEL 073-433-1285 (受付: 9:00~16:00)

作成いただいたチラシ